

5・3憲法集会in京都

アベ政治許さない」と円山音楽堂あふれる 3千人野党6党が揃って「アベ9条改憲NO！」 のエンル!

5月3日午後1時半から「5・3憲法集会in京都」が円山野外音楽堂で開かれ、会場いっぱい約3千人が参加しました。

憲法9条京都の会代表世話人の安齋育郎先生が開会あいさつし、自らの句「主権者はここにあり五月晴れ」を披露しながら、「憲法の憲はかぶり物の漢字で、権力者に勝手な事をさせない意味だ」と述べました。

続いて各政党（社会民主党、新社会党、日本共産党、立憲民主党、緑の党、希望の党）がスピーチし、野党6党の皆さんは手を組んで、9条改憲阻止の決意を固めました。

池内了名古屋大学名誉教授とドイツ文学翻訳家・全国革新懇代表世話人の池田香代子氏が講演しました。池内氏は、「内閣への権力集中を図る、ナチスと同じ手法だ」「これほど一代の首相で悪法を強行した総理はいない。」「しっかりと国民的議論をしてほしい」と言わざるをえない状況にあるが、改憲をあきらめていない」と述べました。池田氏は、「安倍政権の最大の罪は、言葉を破壊したことだ。言葉の意味を軽んじ、バカにし、滅茶苦茶にしてきた」（詳しくは別掲）と強調しました。

集会では各分野と年齢の方が9条への思いをスピーチしました。最年少の高校生は、「平和な日本を大切にしたい。そのためには憲法9条が必要だと思っ

ています」と力強くスピーチしました。最後に3千万署名を集めている府下各地の地域アクションや連絡会が壇上に上がり、元氣よく署名推進の決意を述べ固めました。署名は当日集まった分を入れて京都全体では21万筆を突破しました。全国では3千万に対して1千350万筆を突破したと報告されました。

当日は、京都革新懇、中京革新懇、伏見革新懇、サンサン革新懇、JKK革新懇などがノボリ、旗などを掲げて参加し、四条河原町から京都市役所前まで元氣よくデモ行進しました。（越智）

ドイツ文学翻訳家
全国革新懇代表世話人
池田香代子さん



池田香代子さん記念講演のポイントを以下紹介します。

憲法にはその国の過去の不正義との闘いが刻まれている

ドイツの政治哲学者・ユルゲン・ハーバーマスは次のように言っている。「憲法の1条、1条には過去の不正義との闘いが刻み込まれている。」「私もそう思うのです。憲法を一度ひっくり返して読んでみると、この憲法が作られる前の世界が浮き上がって見える。

例えば日本国憲法だったら、「この国は政府の行為によって戦争惨禍を引き起こしたし、諸国民の公正と信義に信頼をしなかつたし、国民の権威は国民に由来しなかつたし、自国民を扇動して他国を無視したし、国民は



基本的権利を妨げられたし、個人の尊厳を尊重されなかつたし、法の下での平等はなかつたし、思想及び良心の自由は冒されてきたし、婚姻は両性の合意のみに基づいて成立しなかつたし、公務員による拷問及び残虐な刑罰は禁じられていなかった。

憲法集会でスピーチするが年を追うごとに下品になる

何よりこの国はとんでもない戦争をしたから、もうしないと、ひどい戦争をしたから9条があるのですよね。「この憲法はいじまじいのです。みつともない憲法ですよ」とはつきり言っている人がもう5年以上も首相として居座っています。

去年でしたか「5月3日はゴミ日」というネットの書き込みで「いいね」をした人が首相官邸に居座っているのです。何という下劣な光景でしょう。

品位も何もあったものではない。私はここ数年憲法集会のスピーチで年を追うごとに下品になるのです。

安倍政権の最大の罪は「言葉を破壊したこと」

安倍政権の最大の罪は、特定「秘密保護法」を通じた事でも「戦争法」を通じた事でもありません。全てを強行採決した事でもありません。「モリカケ」あれ、全部種類ですね、どうりでズーズーと長引くと思つた。

とにかくお友達スキヤンダルで国民の財産を渡したこともありません。お友達達の提灯もちジャーナリストが準強姦罪で逮捕されそうになったらどこかに手を回して無罪放免にしたことでもありません。言葉を破壊しました。これこそが安倍政権の最も重い罪です。



京都革新懇 事務局通信

京都革新懇事務局通信第114号
発行日 2018年5月7日(月)
発行責任者 越智薫史 〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町43
京都高齢者会館3F
TEL/FAX共用 075-606-1523

憲法と『砂川判決』の言葉の意味を歪曲

言葉の意味を軽んじ、バカにし、滅茶苦茶にしてきました。その意味では集団的自衛権を『合憲』としたことは先に挙げた『戦争法』の露払いになつたわけですけども、まさに憲法と『砂川判決』の言葉の意味を歪曲したものです。

思いだして下さい、『砂川判決』は確かに「自衛の措置は認められる」としていますけども、それは『個別的自衛権』のことだということとは与野党を通じて明らかでした。「『個別的自衛権』で追いつかないことがあるから米軍がいるのだ」というのが『砂川判決』の理屈でした。

なのに「自衛の措置と書いてあるだけで、個別的とは書いていない。だったら集団的自衛権も認められているのではないか」というのが今回の政府の言い分ですよ。これは歪曲だと言いつつ追いつかない。とんでもない屁理屈、まさに言葉の意味の破壊です。

しかも皆さんご存知のように『砂川裁判』というの、アメリカが露骨に圧力をかけて来てね、

当時の最高裁長官がアメリカとその内容について判決を出す時に相談をしていたという、とんでもない、それこそみつともない『属国根性』が剥き出しになった曰く付きの判決でした。

国会討論でも言葉を軽視したただの時間稼ぎに

言葉の軽視は国会討論での討論の軽視にも現れています。まず党首討論をしない。本当に卑怯です。言いまかされるからです。言いまかされるから「関係のないことをだらだらとしゃべって、肝心なことには答ええない」国会はまるで時間稼ぎをすればいいのだ、どうせ数に任せて強行採決するのだ」と思っているのではないのでしょうか。

そもそも野党が要求した、あの臨時国会を開きませんでした。憲法違反です。そう言えば、『そもそも』の意味を閣議決定しました。安倍さんが答弁で「辞書を引いたら基本的に意味があった」と言った。それで質問主意書で「そんな辞書はないのですけど」と言ったら「そもそもには、基本的という意味がある」と閣議決定したので。驚

日本の最大多数は自衛隊も憲法9条も支持

朝鮮半島が平和に向かう兆しを見せてもこの憲法9条を初めとした改憲の機運は収まる気配がありません。この所、どんな世論調査でも「憲法を変える必要はない」という人の方が、「憲法を変えなければならぬ」という人が大きく上回っています。良い事です。当然です。でも一方で先ほどのごあいさつにもありましたように「自衛隊を認める」という人が7割、8割にのびります。

この国の最大多数は9条も自衛隊も支持しているのです。戦後73年のこの国の私たちが辿り着いた選択なのです。自衛隊は人を殺していない。世界でたくさんいのちを救って来ている。国内だけではない国外でも。沖縄にはアメリカの海兵隊、「もう要らない」という声が上がって来ている。だから何とか存在意義を獲得しようとするのが自衛隊の災害救援なのです。

戦時中より怖い事態が起きています

南スーダンの日報、さっき申し上げました戦闘と書いたら憲法9条を変えらるから隠して、ばれたらいけないので「戦闘ではない」とゴチャゴチャ言っています。隊員にもしもの事があつたらなんてこれっぽっちも考えていない。

もう一つ自衛隊が不気味だと思うのは、幹部隊員が国会議員を何10分も罵倒したという事件が起きたということです。またそれを「よくやった」と持ち上げる風潮があることです。

あの幹部隊員は戦争中と言えば大本営の人なのです。戦争中に大本営の人が政治家を捕まえて罵倒なんかしましたか？聞いたことがない。戦争中より怖いことがもう既に起こっている。いま自衛隊には危惧を感じます。これは大変なことです。

自衛隊を憲法に書き入れたら戦力不保持の大原則は反故にされてしまう

一般隊員のいのちをな

私たちは自分たちの政治的な意志が正しいと思つている。その意思をもつてよく乱暴的なやり方で表明する。こんな自衛隊は恐ろしいと思わずにはいられません。

そうでなくても自衛隊を憲法に書き入れたら戦力不保持の大原則は反故にされてしまいます。というの「矛盾する法律がある場合は新しい方を正しいとする」法学の考え方があるのです。日本ではそういう時には古い方の法律を削除します。削除しないでそのまましておく国もあります。そのままにしておいてもどうせ無効なのだから、削除してもしなくても同じだからほったらかしてあるのです。

隠しごとと嘘で推し進める改憲などあり得ない

いま9条2項がその運命にあります。3項に自衛隊を書き込まれた途端、2項は無効になるのです。そのことを改憲論者は言いません。こんな卑怯な改憲論議があるのでしょうか。隠しごとや嘘を前面に押し立てなければ改憲出来ない。議論出来ない、提案出来ない改憲などあるのでしょうか。

「全体主義は人々が自発性を失った時、無力感にさいなまれ、孤立し懐疑心からられる時に完成する」

私たちは断固としてこんなまやかしを拒否しましょう。安倍政権の全ての嘘と全ての隠しごとを拒否しましょう。言葉の破壊を拒否しましょう。分断と排除を拒否しましょう。ナチズムを分析したハンナ・アレントは言っています。「全体主義は人々が自発性を失った時、無力感にさいなまれ、孤立し懐疑心からられる時に完成する」と、だから私たちがすべきことは明らかです。自発性、つまり私たちは全く新しい何かをいつでも始められることが出来るのだというのを忘れないようにしましょう。

そして人を信じ、人とながらみましょう。何とんでも改憲の企みを打ち砕きましょう。来年も再来年の2020年も晴れやかに憲法記念日をお祝いしましょう。(整理責任者阪田)

